

講座名	ステップアップ講座「房総往還を歩く」		
開催日時	2022年4月21日（木）18時45分～20時30分		
開催場所	船橋市中央公民館	一般参加者	0名

活動概要



久しぶりの対面による講座となった。まず挨拶として、講師の福村さんと太郎ちゃんの腹話術によるユーモア溢れる対話で一同大笑いし、和やかな雰囲気が始まった。

今回の講座のテーマである「房総往還」とは江戸から安房に達する街道で、船橋神宮下で成田街道と別れ、江戸湾東岸に沿って木更津を経て館山北条に至る古道の総称である。鎌倉街道とも重なっていることも多い。

今回は旧道の雰囲気が残っている木更津(畑沢)⇒君津(周西)⇒貞元⇒佐貫⇒湊⇒竹岡⇒金谷⇒元名⇒那古までを歩き、その自然や文化、先人の歴史の足跡を追っていただいた。以下に特筆すべき点を述べる。



三舟山は戦国時代、(小田原)北条と里見の合戦があり、此処でゲリラ戦を展開して、里見が北条を撃退して、生き残ることができた。佐貫方面に歩くと道中には立派な長屋門のある屋敷がある。この付近は経済的に豊かな家が多く、句会が盛んだったようで、周辺の富津青堀の織本花婿が有名で、教養深く美人だったようで、句会に小林一茶がよく来ていて、花婿に惹かれていたとの話が伝わっている。

相野谷を過ぎると百坂を通る。この坂は源頼朝が鎌倉を目指して通った時、付き添った騎馬武者が百人も連なっていたとの伝承が伝わっている。



佐貫は佐貫城下の雰囲気を残している。湊川河口は物資積み出し港として栄えた。金谷から保田・勝山に行くには当時は海沿いの道は無かった為、鋸山を越える。勝山は房州捕鯨の発祥地で醍醐一族が本拠とした所でもあり、源頼朝が石橋山の戦いに敗れ、流れ着いた所でもある。



勝山を過ぎ岩井に至ると富山が見える。富山は今上天皇が登山を楽しまれた山で、中腹には南総里見八犬伝に登場する伏姫と八房の籠穴がある。

高崎から那古船形までは木の根峠を越えて丹生を経て行く道と南無谷、富浦を経て行く道の2つに分かれる。木の根峠の登り口には見事なソテツを見る

ことが出来、源頼朝がその見事さを称えたという伝承が伝わっている。南無谷には日蓮聖人が鎌倉に上るときに袈裟を掛けたと言われる松が伝えられている。

講師は、「今回、房総往還を踏破して、先人たちの「生活と思い」「努力と労苦」「感謝と祈り」の足跡が感じられ素晴らしい体験ができた。そして先人達が築いてくれた房総の自然や文化を次の世代に伝えなければと強く思った。」と語られた。私は房総という身近な所に歴史的に興味深い場所がこんなに沢山あるのに驚いたので、ぜひ訪れてみたいと思った。



F I C講師

福村 英俊